



# 2025年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年8月9日

上場会社名 株式会社 関門海

上場取引所 東

コード番号 3372 URL <https://www.kanmonkai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 山口 久美子

問合せ先責任者 (役職名) 経営支援本部長

(氏名) 関口 弘一

TEL 072-349-9329

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	920	8.8	68		78		49	
2024年3月期第1四半期	845	32.9	53		78		12	

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 48百万円 ( %) 2024年3月期第1四半期 13百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	3.61	
2024年3月期第1四半期	0.92	

2025年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。また、2024年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については希薄化効果を有している株式が存在していないため記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	3,433	863	25.1
2024年3月期	4,604	910	19.8

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 862百万円 2024年3月期 910百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		0.00	0.00
2025年3月期					
2025年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,740	44.5	200		225		230		16.79
通期	5,080	1.3	350	40.1	300	46.1	200	39.5	14.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期1Q	14,000,900 株	2024年3月期	14,000,900 株
期末自己株式数	2025年3月期1Q	302,147 株	2024年3月期	302,147 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期1Q	13,698,753 株	2024年3月期1Q	13,698,833 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書 .....	5
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書 .....	6
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7
(四半期連結貸借対照表に関する注記) .....	7
(四半期連結損益計算書に関する注記) .....	7

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間は、コロナ禍からの脱却により人流が活発化したことで個人消費が持ち直し外食機会が増えること等により店舗売上高は引き続き増加傾向にあります。

また、訪日外国人観光客の増加によるインバウンド需要の高まりをうけ、本部も含めた全体の売上高は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の売上高を上回った前年同四半期と比較しても、さらに上回る結果となっております。

当社グループにおいては、デリバリーとの相性が良いうなぎの販売や、インバウンド旅行者にも好評な天然とらふぐコースや夏場の人気コースである「夏安居」を投入し販売を強化した他、様々な研修を充実させることによりひいてはお客様満足度も高めることに努めております。また、本部においても本社工場の人員を確保し、店舗で使用する食材の加工にも一役買うことで繁忙時にもスムーズに営業できるよう体制強化を進めております。

当社グループの主力事業である「玄品」等の直営店舗では、個人消費の回復や、少なかった中国本土からのインバウンド旅行者の増加やその他の台湾・韓国などのアジア地域以外にも欧米からも増加しており、その他にも、うなぎ料理や「夏安居」コースなどの販促に注力し売上が伸長したことにより、前第1四半期連結累計期間と比較して、直営店舗の既存店売上高は、前年同四半期比13.6%増となりました。当第1四半期連結会計期間末の直営店舗数は、前期末から1店舗閉店により42店舗、直営店舗の売上高は771百万円（前年同四半期比10.9%増）となりました。

フランチャイズ事業におきましては、既存店店舗末端売上高及び、とらふぐ等の食材販売等の売上高ともに前年同四半期を上回る結果となりました。当第1四半期連結会計期間末のフランチャイズ店舗数は、上海淮海店を移転のため一時閉店したため1店舗減少し23店舗となり、とらふぐ等の食材販売、ロイヤリティ等によるフランチャイズ売上高は61百万円（前年同四半期比7.7%増）、国内既存店末端売上高は、168百万円（前年同四半期比11.5%増）となりました。

その他の業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、前期末と変わらず1店舗、本部に係る売上高も含めた当第1四半期連結累計期間の売上高は、その他の業態の店舗売上高及び、本部の食材の外部販売に係る売上が減少したこと等により87百万円（前年同四半期比7.0%減）となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は920百万円（前年同四半期比8.8%増）となりました。利益面においては、店舗売上高増加により売上総利益は638百万円（前年同四半期比4.8%増）となりました。販売費及び一般管理費については、コロナ禍から一貫して継続しているコストを徹底管理しているものの、新卒の積極的採用、従業員待遇改善による昇給、賞与や広告宣伝費等が増加したこと等により707百万円（前年同四半期比6.7%増）となりました。これらにより、当第1四半期連結累計期間の営業損失は68百万円（前年同四半期は53百万円の損失）、経常損失は78百万円（前年同四半期は78百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は49百万円（前年同四半期は店舗の立退きに伴う受取補償金100百万円があったため12百万円の利益）となりました。

また、当社グループは、主力事業である「玄品」の季節変動が大きいことにより、四半期毎の業績に大幅な変動があります。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

#### (資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して1,171百万円減少し、3,433百万円となりました。これは、商品及び製品の増加69百万円、流動資産の「その他」に含まれる四半期特有の会計処理に係る繰延税金資産の増加29百万円、流動資産の「その他」に含まれる前払費用の増加5百万円等の増加要因はあったものの、現金及び預金の減少1,195百万円、売掛金の減少64百万円等の減少要因によるものであります。

#### (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して1,123百万円減少し、2,570百万円となりました。これは流動負債の「その他」に含まれる仮受金の増加4百万円等の増加要因はあったものの、返済による1年内返済予定の長期借入金及び短期借入金の減少899百万円、未払金の減少80百万円、流動負債の「その他」に含まれる未払消費税等の減少61百万円、買掛金の減少60百万円等の減少要因によるものであります。

#### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して47百万円減少し、863百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴う利益剰余金の減少49百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月15日の「2024年3月期決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,474,483	1,279,314
売掛金	248,605	184,321
商品及び製品	854,230	923,735
原材料及び貯蔵品	24,616	22,954
未収入金	14,742	13,781
その他	44,265	50,876
貸倒引当金	△311	△296
流動資産合計	3,660,633	2,474,687
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	477,995	470,055
その他(純額)	49,571	49,724
有形固定資産合計	527,567	519,779
無形固定資産		
その他	15,239	14,555
無形固定資産合計	15,239	14,555
投資その他の資産		
差入保証金	274,696	271,149
その他	126,652	153,545
投資その他の資産合計	401,349	424,695
固定資産合計	944,155	959,030
資産合計	4,604,788	3,433,717
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	218,217	157,818
短期借入金	※1,※2 2,284,874	※1,※2 1,491,795
1年内返済予定の長期借入金	※2 602,626	※2 495,705
未払金	276,270	195,703
未払法人税等	1,026	500
賞与引当金	37,583	23,227
株主優待引当金	16,120	16,000
その他	130,218	64,651
流動負債合計	3,566,937	2,445,403
固定負債		
長期借入金	※2 100,000	※2 100,000
その他	26,858	25,258
固定負債合計	126,858	125,258
負債合計	3,693,795	2,570,661
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	656,201	656,201
利益剰余金	531,520	482,385
自己株式	△288,020	△288,020
株主資本合計	909,700	860,566
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,233	2,431
その他の包括利益累計額合計	1,233	2,431
新株予約権	58	58
純資産合計	910,992	863,056
負債純資産合計	4,604,788	3,433,717

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	※ 845,916	※ 920,640
売上原価	236,978	282,558
売上総利益	608,938	638,082
販売費及び一般管理費	662,825	707,061
営業損失(△)	△53,886	△68,978
営業外収益		
受取利息	19	37
助成金収入	2,276	-
持分法による投資利益	1,233	-
その他	758	823
営業外収益合計	4,289	861
営業外費用		
支払利息	10,735	7,787
社債利息	1	-
支払手数料	16,651	1,379
その他	1,455	739
営業外費用合計	28,843	9,905
経常損失(△)	△78,441	△78,023
特別利益		
受取補償金	100,000	-
特別利益合計	100,000	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	21,558	△78,023
法人税等	8,933	△28,502
四半期純利益又は四半期純損失(△)	12,624	△49,520
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	12,624	△49,520

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	12,624	△49,520
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	820	1,198
その他の包括利益合計	820	1,198
四半期包括利益	13,445	△48,322
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,445	△48,322
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、店舗運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	18,787千円	19,540千円

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

※1 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と貸出コミットメント契約及び当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
貸出コミットメントの総額	500,000千円	500,000千円
当座貸越極度額	1,010,236	593,244
借入実行残高	1,475,453	954,114
差引額	34,782	139,130

※2 財務制限条項

シンジケートローン契約については、以下の財務制限条項が付されております。

①2020年3月期決算以降、各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を、2019年3月決算期末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額の75%以上に維持すること。

②2020年3月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続する2期について、各年度の決算期における連結の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。なお、遵守に関する最初の判定は、2021年3月決算期およびその直前の期の決算を対象として行われる。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

※ 当社グループの売上高は、通常の営業形態として、冬場におけるとらふぐ料理の需要が大きいため、第3、第4四半期連結会計期間の売上高と他の四半期連結会計期間の売上高との間に著しい相違があり、業績の季節的変動があります。